

報道関係者各位

2026年 5月 29日  
宇土市役所

# Press Release

—お問い合わせ—

宇土市 まちづくり推進課 広報プロモーション係

担当:田上(たのうえ)、松田(まつだ)、古田(ふるた)

電話:0964-27-6608/メール:machi05@city.uto.lg.jp



昭和9年生まれ、92歳。軽トラもトラクターも現役。

## 宇土市・葉たばこ栽培58年、戦後を生き抜いた現役農家

宇土市で葉たばこを栽培する中川勝熊さん(92歳・昭和9年生まれ)は、34歳から数えて今年で栽培歴58年を迎える現役農家です。現在は長男(60歳)とともに約2ヘクタールを家族で管理。取材当日も早朝から、妻の八千代さんと畑に出て「花止め」作業に汗を流していました。軽トラもトラクターも自ら運転し、「何か体を動かしていないと落ち着かない」と語る勝熊さん。その言葉通り、92歳の今もほぼ毎日畑に立ち続けています。

### 【戦時中・少年時代 馬と畑と、戦地に行った父】

8人兄弟の長男として生まれた勝熊さんは、父親が戦争に召集されていた間、農作業を支えるため学校をたびたび早退していました。当時はまだ耕運機がなく、馬で田んぼを耕す日々。「おやじは農業のかたわら、馬車で山の産物を運ぶ仕事もしていた。働き者でした」と、父の背中を懐かしく語ります。終戦を小学6年生で迎えた後、学制改革により新制・網津中学校の1期生として進学しました。

### 【海苔養殖から葉たばこへ 34歳、生活を懸けた転換】

若いころは海苔の養殖で生計を立てていましたが、病害の広がりにより養殖が立ちゆかなくなりました。「どうやって生活していくか」と悩んだ末、34歳のときに葉たばこ栽培へ転換。当時、宇土市内には75軒の生産者がいましたが、高齢化や後継者不足で現在は30軒ほどに減少しています。

### 【92歳の今 家族と畑、そして毎日の「一周」】

現在は長男が主体となり、勝熊さんはサポート役として農作業に加わっています。「黄緑色になった葉が熟れたサイン」と話し、長年の経験が体に染み込んでいます。葉たばこの収穫・管理は7月末まで続き、その後は同じ圃場で飼料米を生産します。さらに、農繁期でないときも毎日田んぼへ足を運び、畦道をぐるりと一周するのが日課。「じっとして家の中でテレビを見ているのは好きじゃない。体を動かしていないと落ち着かない」と笑います。軽トラもトラクターも現役で運転し、妻・八千代さんとジャガイモ・スイカ・オクラ・えんどうなどの野菜を育ててご近所に配ることも楽しみのひとつです。

「この生活が健康につながっていると思う。健康な体に生んでくれた親には感謝している。田んぼの中で死んでも悔いはない」と話す中川さんの活躍にご注目ください。

